

黎明紙第2号御研鑽

明主様の御救いについて（その1）

御教えを頂くにあたつて

この度、私共の黎明教会が、「明主様に対する純粹なる信仰をつらぬかせて頂く為」また、「明主様の御教えにもとづく信仰の自由を守らせで頂く為」に、新しい第一歩をふみ出させて頂いたことは、創刊号すでに申し上げた通りであります。

明主様こそ、万物の創造者であり、且つ主宰者であられる主神から、天の時来つて、その直接的な救いの御力と、御教えをゆだねられ、人類救済の大使命を帶びて出顕された方であります。

明主様を救い主として仰ぎ、明主様の御教えか神様の御救いの言葉として魂に謙虚に頂き、

常に御教えをすべての基準とする姿勢を守らせて頂くことこそ、如何なることにも優先する私共の信仰の基本的なあり方であることは、先号で申上げた通りであります。

明主様はある御論文の中で、『此の著は、主神直接の啓示』によるものであり、『歴史肇つて以来、未だ嘗てない大著述であり、一言にしていえば新文明世界の設計書ともいるべきもの』であると御説き下さつて居ります。更に、『私の想像的所産ではなく、神示によるもの』であり、『時期來つて、地上天国建設の大任を負わされた私としては、或程度主神の真意が感得されるから、読者は此の点よく心に止

めて読んで貰いたいのである』また、『神の大愛は一人でも多くの人間を救わんとして私という者を選び給い、其の大業を行わせられるのであつて、其の序曲というべきものが本著であるから、此の事を十分肝に銘じて読まれたいのである』と御垂示下さつて居ります。

ここに、私共が御教えを拝読させて頂くにあたつて心にとどめておかねばならないことを、はつきりと示して下さつて いると思ひます。

今回は、私共が御教えを拝読させて頂くにあたつて、最も大切と思わることを、皆様と共に、一、二、三考えさせて頂きたいと思ひます。

明主様が、救世教についてお説き下さつた御教え（『救世教とは何ぞや』）を拝読させて頂いて、先ず気がつかせて

頂くことは『救世教は純然たる宗教ではない』ということ
であります。『一部には宗教も含まれているが、全部でない
事は勿論である。

では、何故救世教の名を附けたかというと、何しろ有史以来
夢想だもしなかつた処の画期的救いの業である以上、止むを
得ずそう附けたまでであつ特殊の名前を附けるよりも、この
方が分り易く親しみ易いからで、これを卒直に言つて宗教
以上の宗教、即ち超宗教であり、空前の救いの業と思えば
いいのである。』とお説き頂いて居りますように、今迄に
私共が、宗教に対してもつていた考え方、概念によつて、
救世教を理解することは困難であるということであります。

私共の祖先は、理想の世界を達成する為に、血のにじむ様な苦心をはらつてまいりました。幾多の卓越せる有能者は勿論のこと、神様より与えられた自分の使命を全うする為に、地道な歩みを続けてきた無名の先達の方たちの努力の結晶の上に私共は生かさせて頂き、

その恩恵を受けているわけであります。その恩恵に対して、私共はいくら感謝してもしそぎると言うことはないと 思います。しかし、残念なことに、現在の世の中は、外面の華々しさにくらべて、肝腎な幸福がそれに伴なつて居りません。

そのことは、一番大切な生命の安全の確保すら出来ていな いという一事を見てもうなずけるのであります。

この原因である現代文化の欠陥について、明主様は神示を通して説き明かされて居ります。

『現代文明は全面的進歩ではなく、半面である唯物分野のみの進歩であり、他の半面である唯心分野は全然顧みられない事』であります。もつとも、これは神様の御経綸上、その御目的である理想の世界を創られる為に、精神面よりも、

物質面の準備を先にされたことによると、説かれて居ります。その為に、神様の実在を無視させ、私共の想念物質面に向けられたわけであります。しかし、『それによつて物質文化は予定の線にまで発達した今日、ここに神は唯心文化を一挙に飛躍させ、両々相俟つて眞の文明世界を創造』されことになつたのであります。今日迄、私共は、とかく宗

教と科学、精神面と物質面を別々のものとして考えてまいりました。明主様は『此の考え方こそ大きな誤りであったので、それを根本から解明する』と言われました。

現在声での世の中は、精神文化のみで失敗し物質文化のみで失敗してきたと申しても過言ではありません。

明主様は、このことに対し、

『精神に偏らず物質にも偏らない両々一致した中正的新しい文化形態であり、それによつてのみ天国は実現するのである』（「本教の誕生」とお説き下さり、ある御神書について、『その企図の根本こそ、経に偏せず緯に偏せずして、経であり緯でもある処の融通無碍の、いわば中庸的考え方の真理を説くのである』（地31号）と仰しやつて居られます。

主神の御目的である人類待望の天国世界、病貧争絶無の真善美完き理想世界、眞の文明世界とは、如何なるものであるかは、恐らく今日の私共の頭では片鱗（りん）すら掴（つか）み得られない程、素晴らしい世界であるに違ひありません。

また、この新世界への転換期に於ける凡ゆる文化の切り換えも到底、私共の想像を絶していることでありましょう。

この重大時期にあたつて『**主神直接の啓示**』により、

『**旧文明中の誤謬の是正と新文明構想の指針**』を与えたのが御教えであります。御教えを拝読させて頂くにあたつて、私共は先ずこのことを忘れてはならないと思います。

『宗教とか科学とかに偏しないのは勿論、前人未見の宇宙の深奥なる実体にまで突き進んで説くのであるから、一言にしていえば真理其のものの解説である』と御説き頂いて居ります様に、明主様の御教えは、一言一句の中に、今日まで、何人も説き得なかつた真理の深奥が示されていることを、しつかり掴ませて頂かなければならぬと想います。

『精神か物質かどちらかの文化の経験しか持たない人類であつてみれば、どちらにも偏らない中正的新文化など、容易に理解出来ないのは当然であろう』（『本教の誕生』）と仰しやつて居られますように、私共が、数回の拝讀によつて、御教をかなり理解させて頂けたなどと、もし考へるならば大変な間違いであると想ひます。御承知の様に、御教えは一見非常にやさしく説いて下さつて居りま

す。もうこれ以上平易な説き方はないというところまで御推敲になられたと承つて居ります。

『いと高き神の教えをいと低き理（ことわり）をもて吾は説くなり』と、

御詠みになつて居ますが、御表現は誰にでも分るよう
にやさしく、しかも、私共の今迄の考え方、概念を用い
て、内容は、

未だかつて説かれたことのない高い真理を解明して下さつ
ているということを忘れてはならないと思います。さもな
いと、私共は今迄にも世の中には同じ様な考え方、説があ
つたと錯覚したり、同じことを違つた表現で、御教えでは
説かれていると考えたりするおそれが出でまいります。そ
うでなくとも、私共の頭脳は長い間、既成文化の考え方、

特に唯物科学の影響を強く受けてきて居りますから、自分では気がつかない中に、その頭で、教えを理解しようとしても、また既成観念の範囲内に教えをおしこめ、それで教えが理解出来たかのような錯覚に陥るおそれがあると思します。

例えば、淨靈を、所謂宗教的な面からのみ理解しようとしますと、淨靈が宗教と科学以上の真理の現われであつて、

而も科学との接触点をも兼ね備えて居り、唯物分野の人々でさえその力にふれさせて頂き、神様の実在を認識出来る可能性のあることを忘れてしまう場合が出てくると思います。逆に、科学的な面にのみ偏つてしまいすると、今の科学がそのままの形で進歩することによつて、淨靈の原理を

理解し説明出来る様な錯覚に陥らされたり、あげくの果ては単なる病氣治しとしてしか理解出来ないことになつてしまふであります。このことは、淨化作用の教え、或は自然農法の原理等を理解させて頂く場合、更には、政治、経済、教育、芸術等の数々の教えを拝讀させて頂く場合にも、同様のことが申上げられると思ひます。私共はとからく今迄の精神面、或は物質面に偏つた既成觀念の影響を受けやすいのでありますから、そうならない為にも、

日常の御教えの拝讀をおろそかにしてはいけないと思ひます。勿論、表面だけの拝讀に終わつたり、字句にのみとらわれることは絶対につつしまなくてはなりません。常に私共は、御教えの一言一句を、神様の御救いの言葉として、魂に謙虚に頂き、そこには今日迄の何人も説き得なかつた

これから的新文明世界建設の指針としての不滅の真理が説き明かされているということを忘れてはならないと思います。私共は、既成の考え方一立場の影響を出来る限り避け、常に白紙になつて拝読させて頂くことがいかに大切であるかを、今一度明確にさせて頂く必要があると思います。

ここに私共は、明主様の御教えによる純粹な信仰を確立させて頂き、明主様の御理想達成への道を、一歩一歩誤りなく進ませて頂けるものと確信するのであります。